「コモエース プレミアム」発表会を開催

セーレン

セーレンは7月1日、独自技術によって繭から高純度に抽出・精製した天然たんぱく質「ピュアセリシンTM」を配合したアンチエイジングライン「コモエース プレミアム」シリーズを発売し、「エクセレントローション」（180mL1万5000円）と「エクセレントクリーム」（50g2万5000円）の展開をスタートした。

同製品は、繭に含まれる天然美肌成分「ピュアセリシンTM」にビタミンDとフィチン酸を加え、加齢とともに衰えがちなNMF（天然保湿因子）産生能力の活性化を促して潤いを作り出す肌に導くという。また、美白が期待されるビタミンC誘導体と抗炎症が期待されるグリチルリチン酸2Kを配合したことで、美白とエイジングケアを同時に実現した。

発売を記念して6月23日に開催された発表会には女優の床嶋佳子、お笑いタレント「ピース」の綾部祐二、又吉直樹が登場し、会場を盛り上げた。

床嶋さんの「フェイスマッサージ」をかけて行われた「年上女性をおとすマル秘テク対決」では綾部さんが勝利したものの、フェイスマッサージは床嶋さんではなく又吉さんが行い、会場は笑いに包まれた。

「ラックスクリーム」にシアータイプ

ラ・プレリー

ラ・プレリージャパンは6月25日、「SCコンシーラー・ファンデーション」（ファンデーション＝30mL、SPF15・PA＋＋＋、コンシーラー＝全9色各2g、2万3800円、9月11日発売）、「SCラックスシアークリーム」（50mL4万9600円、10月23日発売）の発表会を開催した。

日本上陸25周年を迎えた「スキンキャビア」は、2000年に「SCラックスクリーム」、2011年に「SCリキッドエッセンス」を発売するなど、ファミリーを増やしてきた。

新製品に配合されているスキンキャビアエッセンスは、ラ・プレリー本社より来日したDr.ダニエル・スタングル氏によると「細胞間脂質を生成するセラミドを25％増加させ、コラーゲンI型とIII型の生成を促し、細胞間の密度を高める働きがある」という。

ダニエル・スタングル氏

リニューアル発売する「SCコンシーラー・ファンデーション」は、色素を植物系アミノ酸でコーティングしてうるおいとしっとり感を高め、ファンデーションの効果を持続させる。このコーティングは肌への融和性が高く、色素を定着させて化粧がくずれにくくなる。パルミトイルヘキサペプチド－14が肌にハリをもたらす。全世界で全16色（日本では9色）の色調を提供する。

「成分の大きな改善点として、国際基準を満たすよう、二酸化チタンの量を減らした。にもかかわらず、カバー力は変わらない。利便性を考えてファンデーションのキャップ部にコンシーラーをセットし、専用ブラシと拡大鏡もつけた。コンシーラーはファンデーションより少し明るい色で、肌色を整えるのに適している。ファンデーションと同じスキンケア成分を配合するとともに、別の色素テクノロジーを採用し、目の下のくまをなめらかにカバーする」（スタングル氏）

人気商品「SCラックスクリーム」と同じ肌効果を持ちながら、軽い感触を持つ「SCラックスシアースクリーム」はハリと引き締め効果を追求し、スキンキャビアエキスとセルラーコンプレックスの組み合わせでエイジングケアトリートメントをもたらす。水分の引き効果を高める海藻エキスや、バイオテクノロジーで得られた発酵成分などがみずみずしい仕上がりを可能にした。

「専門家による評価では使用直後からパネリスト全員のキメとなめらかさの改善が報告され、機器を使った評価では肌表面の角質の減少が認められた。この評価は臨床研究で肌がうるおいを増し、明るくなったことと合致する。4週間でパネリストの大部分が肌の弾力が戻り、わずか8週間で全体的にすっきりしたみ、色素沈着、小じわを目立たなくさせるだけでなく、冬虫夏草やインディアンツリーエキスを配合することでメークアップだけでなくスキンケア効果も期待できる」（同社）という。

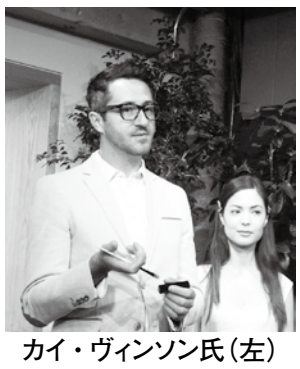
コレクターで目もとのクマをカバーした後、コンシーラーが目もとのファンデーションの色よりワントーン明るく整え、顔全体を若々しい印象へと導く。コンパクトタイプでチップだけでなく、指やブラシでつけても使え、肌につけると一日中効果が持続する。

会場ではアジア担当のトップアーティスト、カイ・ヴィンソン氏によるメイクアップレッスンセミナーを開催し、コンシーラーとコレクターの使い方や、7月17日に限定発売する「テルライドコレクション」を使ったメークも紹介した。

このコレクションは米・コロラド州にあるテルライドの黄褐色の夕空からインスパイアされたもので、暖色系7色アイパレット「テルライドアイパレット」（限定1種6700円）、チークにも使える「ポットルージュ」（限定2色各3300円）、フェースパウダー5色入り「シマーブリック」（限定1種5200円）、シアーリップカラー、リップライナー、リップグロスをセットした「リップトリオ」（6200円）で構成され、暖かみのある色合いが揃う。

ボビイブラウン スキンケア発想のベースアイテム発表

ボビイブラウンは6月25日、目もと専用の「インテンシブスキンセラムコレクター」「同セラムコンシーラー」（2種、10色各5100円、9月18日発売）の発表会を開催した。



カイ・ヴィンソン氏（左）

今年4月に発売し、ヒット商品となった「インテンシブスキンセラムファンデーション」に続くアイテムであり、「目もとの3つの悩みであるくすんだ肌色、目の下のくまの改善、ハリ」を目的に開発された。

「ベースアイテムは肌の印象になった。装置を使った製品の使用前後のコラーゲン測定ではパネリストの88％に上昇が確認され、ハリと弾力の改善は95％にみられた」（同氏）

「女心」攻略データベース

第61回 「ビッグ・ママ気質」は最新の女心

先日、たまたま仕事仲間と観ていた「モニタリング」というTV番組。ドッキリを仕掛けて、それを隠しカメラで観察するというもので、その回は45歳の年の差婚で話題となった、加藤茶さん（72歳）が仕掛け人。保証人になった友人に逃げられてしまい、1億円の借金ができたという話を、妻の綾菜さん（27歳）に告白するという設定です。馴染みの焼き肉店とおぼしき店で、加トちゃんが、肩を落としながら、奥さんに告白を始めると、「えっ？1億？」「この間、ようやく1億返したところなのに、ウソでしょ？」と、すでに1億の借金があって返済したばかりの状況が判明。「さらに借金が出来たなんて信じられない」といった様子の中、しばらく沈黙が続き、かなり重い空気が流れていましたが、「アーたん、ごめんね。こうなったら僕と離婚してくれる？」。ガックリうなだれた加トちゃんが、あきらめたように奥さんに別れを切り出すと、それまで腕組みしたまま黙っていた彼女が、「何言ってるの？二人で何とかするでしょ！」「家を売っちゃっても、どうにかなるよ！」と、怒りをおさえながらも、45歳年上の加トちゃんを激励する言葉で切り返してきました。その後、綾菜さんの豪快ともいえる前向きな発言に、ドッキリの仕掛人ながらも、感動する加トちゃんの姿が映し出されていきました。最後は、番組ディレクターの登場で、ネタばらしとなったわけですが、実は、私が一番驚いたのは一緒に観ていた大人の男性が、目に大粒の涙を浮かべて泣いていたことでした。

「ここで泣く？」。普段は知的で、人前で感情をほとんど出すことがない彼が、もしかすると、シナリオがあったかもしれないバラエティー番組を観て泣くとは腑に落ちません。すると、「古き良き時代の男たちのような心を持つ女性が、若い世代にも出てきているんだよな」。少し照れくさそうに、コメントが返ってきました。

かつて、「理想の男性は？」と聞かれて、女性から必ず答えにあがったのは、「包容力のある男性」でした。今、それは男性が求める理想の女性像へと変わってきたのではないでしょうか？ アメリカ大統領候補のヒラリー・クリントンしかり、クリントン元大統領も、彼女の包容力のもと、上手に手の平で転がされていたのかもしれません。最高の包容力を持っているのは、男性よりも母なる女性だとすれば、相手をすべて包み込むくらいの強さ、それこそが本物の優しさだと教えてくれるビッグ・ママの気質を持った女性が時代に必要とされているのだと思います。

執筆者・中村浩子

【分け隔てなく受容する力としての母性】

草食系男子と肉食女子という表現が使われるようになって久しいですが、この現象を男性の女性化、女性の男性化傾向と考えるといろいろなヒントが見つかります。

教育を通じて男女同権が浸透し、「男ならこうあるべき」「女はこうあるべき」という古典的な役割の違いがなくなってきたため、過去の役割の違いを認識している世代から見ると「男性が女性的になった」「女性が男性的になった」という可能性も考えられます。

かつては、男性は善と悪を区別して指導する父性、女性は善悪の分け隔てなくすべてを包み込む母性を大切にするという、子育てにおける男女の役割の違いを前提にした「ありかた」を教わる機会が多くありましたが、昨今は希薄になっているように感じます。

これを前提とすると、中村さんの言われる包容力とは「母性」を示しているのではないでしょうか。

「相手を受容する」という考え方は、管理職の部下育成講座でもよく取り扱われるテーマですが、それだけ無条件に他人を受け入れるのは難しいと言えるでしょう。人間関係が希薄になり、自分自身にとっての社会単位が小さくなる傾向が強い昨今だからこそ、無条件で自分を受け入れてくれる母性を求めるのかも知れません。

この辺りに勝機が潜んでいるものと思われますので、それぞれのビジネスフィールドで考えてみて下さい。

執筆者・中野靖識

●執筆者プロフィール●

中村浩子
㈱ヴィーナスプロジェクト代表取締役社長

聖心女子大学在学中より、光文社「JJ」にてファッション・ライフスタイルを担当。
その後「VERY」「STORY」の編集、企画を経て独立。
株式会社セブン＆アイ出版スーパーバイザーを経て、現在は一万人の読者モデル発掘の経験と女性消費者を取材し続けながら、ファッション、ビューティに関するブランドプロデュース、コンサルティングなどを行う。

●解説者プロフィール●

中野靖識　㈱船井総合研究所　上席コンサルタント
小売業を中心としたマーケティング戦略立案および実行支援を主業務としている。
特に、現場の戦術、戦闘レベルの業務である商品構成・売場作り、プロモーション、それらを最大限に活かすための社員教育までカバーしている。戦略立案から現場へ落とし込むまでの一貫した業務経験を豊富に有する。

問い合わせ先
株式会社ヴィーナスプロジェクト 小林
TEL 03-3408-7765
Mail venus-project@fine.ocn.ne.jp